

令和6年度 社会福祉法人京都長尾会 せいかだい保育所  
 保育所における自己評価

A,B,C,Dの4段階評価です。

A：大変良い、B：良い  
 C：一部検討を要する  
 D：改善を要する

I 保育の基本的理念と実践に係る観点

子どもの最善の利益の考慮・子どもの理解について総合評価B

	評価	考察・改善に向けて
子どもの人権への配慮した保育を行っている	A	少人数グループ制では一人ひとりのペースに合わせて気持ちを受け止めながら保育を行っている。幼児クラスの集団が大きくなると全体のペースで進めるため、じっくりと待つ余裕がない。気持ちに余裕を持って保育を行っていく。
一人ひとりを大切に保育を行っているか	B	
子どもの育ちを理解して保育を行っているか	B	
子どもの心情・内面を理解しているか	B	

保育のねらい及び内容について

総合評価B

	評価	考察・改善に向けて
発達過程に即したねらい及び内容になっているか	A	発達過程に即したねらい・内容になっていても必ずしも子供の実態に即しているとは言えない。子どもの状況や個別の発達を踏まえた保育の展開を心がける。主体的な遊びや生活の場面もあるが、一斉の活動の中でも子どもの決定権や選択権がある保育を心がけたい。職員間での共通認識も高めクラス全体として充実させていきたい。
子どもの実態に即した保育の展開をしているか	B	
健康・安全で心地よい生活を送れているか	B	
子どもが主体的な遊び・生活が出来ているか	B	
体験の豊かさや広がりを保障しているか	A	
集団における活動の充実を図っているか	B	

保育の環境（人・物・場）の構成について

総合評価B

	評価	考察・改善に向けて
健康・安全で情緒の安定した生活ができる環境か	B	一クラスの人数が増えたり、子どもの身体的発達に伴い、物の配置や保育士の見守り方などの環境構成を見直し、その時に合った安心・安全な生活空間となるようにさらに工夫をしていく。整理・整頓や清掃などの環境美化を常に心がけ、心地よく過ごす環境を保つようにする。一人ひとりの自立・自律に向けて、子どもがやろうとしていることに手を出し過ぎず、見守りや最小限の援助の中で、子どもの育ちを保障する。特別な支援が必要な子どもに応じた保育の難しさがある。要検討。
自ら周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境か	A	
地域社会の様々な資源の活用をしているか	A	
保育士等の子どもへの関わり(援助・行動・言葉・位置・タイミング等)	B	
養護と教育が一体的に展開できているか	A	
子どもが安心感や信頼感を持てる関わりをしているか	A	
子どもの変化に応じた活動の展開とその援助を行っているか	B	
主体的な活動を促す多様で適切な援助をしているか	B	
特別な支援や配慮を要する子どもへの関わりは適切か	B	

育ちの見通しに基づく保育について

総合評価B

	評価	考察・改善に向けて
保育理念・保育目標は子どもや地域の実態に即しているか	A	保育理念・目標・全体的な計画は毎年職員で見直しを行っているが、職員間での共通理解は弱い部分がある。さらに高めていきたい。計画や記録等はICT化しているが、事務的作業にかかる時間の捻出が課題であり、内容の充実化が図れていない。行事等も職員で役割分担や協力体制を作っているが一部の職員の負担が大きい時もあるため協力体制を整えていく。
全体的な計画は子どもや地域の実態に即しているか	A	
保育理念・保育目標・全体的な計画は職員で検討し、共通理解を図っているか	B	
指導計画は子どもの実態に即し柔軟なものになっているか	B	
保育の記録は適切に記録・活用しているか	B	
行事の時期と内容は適切か	C	
職員間の役割分担及び協力体制はできているか	B	

## Ⅱ 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点

子どもの家庭との連携と子育て支援について 総合評価B	評価	考察・改善に向けて
家庭の実態や保護者のニーズ・意向を把握しているか	A	保護者からの意見は随時受け付け、それを職員で共有しフィードバックしている。 子育てに関する情報提供を行っているが、保護者が保育に参加する場面は少ない。ともに子育てをしている立場として参加できる場面を増やしていく。
保育所の特性を活かした支援を行っているか	B	
情報の提供・共有や保育への保護者の参加具合は適切か	B	
保護者の状況に配慮した個別な支援や家庭支援を行っているか	B	
プライバシーの保護はできているか	A	

地域の保護者等に対する子育て支援について 総合評価B	評価	考察・改善に向けて
保育所の施設や機能を開放しているか	A	子育てや地域支援事業に施設を開放しており、相談事業も随時行っているが、来園者は減少傾向にある。一時預かりのニーズに十分に答えられていない。
子ども・子育てに関する相談・助言や情報提供を行っているか	B	
一時預かりの事業は機能しているか	B	

地域における連携・交流について 総合評価A	評価	考察・改善に向けて
地域の多様な人々との連携・交流を図っているか	A	5歳児をメインとして小学校との交流や地域のボランティアとの交流などを月1回程度行っている。継続しさらに連携を深めていきたい。
自治体・関係機関等との連携は適切か	A	
小学校との連携を行い、相互理解を図っているか	A	

## Ⅲ 保育の実施運営・体制全般に係る観点

組織としての基盤の整備について 総合評価B	評価	考察・改善に向けて
管理職の責務とリーダーシップは適切か	A	管理職はリーダーシップをとりながら各職員のマネジメントを行っている。各職員の状況に応じて勤務体制を整えたりしているが引き続き管理を適切にしていきたい。
組織全体のマネジメントは適切に行っているか	C	
職員の勤務環境及びその管理状況は適切か	B	

社会責任の遂行について 総合評価A	評価	考察・改善に向けて
法令の順守は行えているか	A	苦情解決の仕組みがあり、その都度適切に処理をし、必要に応じてフィードバックをしている。 保護者や地域社会に対して説明責任を果たしているが、十分ではないので、引き続き丁寧に行っていきたい。
個人情報の取り扱いが適切か	A	
苦情解決の仕組みがあり、適切に処理されているか	A	
保護者や地域社会に対する説明責任を果たしているか	B	
会計・財務の取り扱いは適正かつ適切に処理されているか	A	

健康及び安全の管理について 総合評価B	評価	考察・改善に向けて
保健的環境や安全の確保はできているか	B	安全点検、室内安全チェックを行っている。アレルギー食の確認を徹底している。災害に備えて備蓄品の確保やお迎え対応訓練を行っている。事故防止対策委員会を定期的に関催し、事故の共有や要因を委員会で考察し、予防対策を考える仕組みができている。
健康の保持及び増進に係る取り組みを行っているか	B	
食育の推進や安全な食の提供を行っているか	A	
疾病・事故等の発生予防や対応に係る体制構築を図っているか	B	
災害への備えや避難体制構築を図っているか	A	

職員の資質向上について 総合評価B	評価	考察・改善に向けて
職員同士が学び合う姿勢と職場環境であるか	B	より多くの職員が研修を受けられるように計画を立てている。研修内容や成果を所内で共有・活用できる機会を設けていきたい。
研修の機会確保と充実、体系的な研修計画の作成を行っているか	A	
保育所内で研修成果の共有や活用は行っているか	B	